

# 1. 評価結果概要表

評価確定日 平成20年9月24日

## 【評価実施概要】

|               |                             |                   |  |
|---------------|-----------------------------|-------------------|--|
| 事業所番号         | 4072300421                  |                   |  |
| 法人名           | 有限会社 ケアビット                  |                   |  |
| 事業所名          | グループホーム 陽だまりの家              |                   |  |
| 所在地<br>(電話番号) | 福岡県八女市高塚212                 | (電話) 0943-30-2022 |  |
| 評価機関名         | 社団法人 福岡県介護福祉士会              |                   |  |
| 所在地           | 福岡市博多区博多駅前中央街7-1シック博多駅前ビル5F |                   |  |
| 訪問調査日         | 平成20年8月23日                  |                   |  |

## 【情報提供票より】(平成20年7月30日事業所記入)

### (1) 組織概要

|       |              |        |                         |
|-------|--------------|--------|-------------------------|
| 開設年月日 | 平成 16年 1月 6日 |        |                         |
| ユニット数 | 2 ユニット       | 利用定員数計 | 18 名                    |
| 職員数   | 17 人         | 常勤     | 12名, 非常勤 5名, 常勤換算 15.1名 |

### (2) 建物概要

|      |  |  |
|------|--|--|
| 建物形態 | <input checked="" type="radio"/> 単独 <input type="radio"/> 併設 | <input checked="" type="radio"/> 新築 <input type="radio"/> 改築 |
| 建物構造 | 木造り  |  |
|      | 1階建ての  | 1階部分   |

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

|                     |   |                                    |  |       |
|---------------------|---|------------------------------------|--|-------|
| 家賃(平均月額)            | 33,000 円                                | その他の経費(月額)                         | 12,000 円   |       |
| 敷金                  | 有( ) 円                                  | <input checked="" type="radio"/> 無 |  |       |
| 保証金の有無<br>(入居一時金含む) | <input checked="" type="radio"/> 有( ) 円 | 有りの場合<br>償却の有無                     | <input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無 |       |
| 食材料費                | 朝食                                      | 200 円                              | 昼食   | 300 円 |
|                     | 夕食                                      | 400 円                              | おやつ  | 100 円 |
|                     | または1日当たり 円                              |                                    |  |       |

### (4) 利用者の概要(平成20年7月30日現在)

|       |           |      |      |    |      |
|-------|-----------|------|------|----|------|
| 利用者人数 | 18 名      | 男性   | 4 名  | 女性 | 14 名 |
| 要介護1  | 3 名       | 要介護2 | 4 名  |    |      |
| 要介護3  | 6 名       | 要介護4 | 4 名  |    |      |
| 要介護5  | 1 名       | 要支援2 | 0 名  |    |      |
| 年齢    | 平均 80.8 歳 | 最低   | 60 歳 | 最高 | 92 歳 |

### (5) 協力医療機関

|         |                                  |
|---------|----------------------------------|
| 協力医療機関名 | 木附内科医院、今里整形外科、公立八女総合病院、秋山歯科、大石歯科 |
|---------|----------------------------------|

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームの周囲には青々とした田圃が広がり、静かな環境の中に位置している。運営者は福祉に意欲的に取り組み三施設を設立している。介護の必要な高齢者へ「その人らしい生活を自分の意志で安心と感謝に満ち、共に暮らす」の理念の基、運営者はじめ職員は、利用者一人ひとりを大切に人としての尊厳を守り言葉遣いに気をつけ暖かく見守っている。また、協力医療機関との連携で24時間適切な医療受診の体制が整えられている。温かな家庭的な環境を大事に介護支援が行なわれており、利用者の表情に反映されている。今後益々期待されるグループホームである。

## 【重点項目への取り組み状況】

|       |  |
|-------|--|
| 重点項目① | 前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)   |
|       | 前回の外部評価の改善課題を全職員で検討し、改善点については、速やかに取り組みサービスの向上に活かされている。   |
| 重点項目② | 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)  |
|       | 外部評価を受けることで、日常の介護の見直しの重要性を十分に理解し、自己評価と共に改善材料とし、全職員で介護の質の向上に努めている。  |
| 重点項目③ | 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)   |
|       | 民生委員、老人会、家族代表、市職員等関係者の参加を得て二ヶ月に一回運営推進会議を開催している。外部評価の報告や前回の会議の検討事項の経過報告及び事業所の取り組みや現状を報告している。また、参加者からの卒直な意見や助言を得ており、職員間で検討を行いサービスの質の向上に活かしている。 |
| 重点項目④ | 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)  |
|       | 利用者の日常生活、健康状況を、家族の面会時に報告し、親しく会話するなかで、意見や苦情が言いやすい雰囲気作り配慮している。面会の少ない家族には、電話で報告や連絡をする中で意見等を聴いている。   |
| 重点項目④ | 日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)   |
|       | 老人会の会合、敬老会等地域の行事や清掃活動に参加している。ホーム行事のバザーには、近隣住民の多数の参加を得ており、その収益金で購入した掃除機を、福祉センターへ寄付するなど、地元の方々との交流に努めている。                                       |

## 2. 調査結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

| 外部                    | 自己 | 項目  | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)  | (○印) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取組んでいることも含む) |
|-----------------------|----|---|--|------|----------------------------------|
| <b>I. 理念に基づく運営</b>    |    |   |  |      |                                  |
| 1. 理念と共有              |    |   |  |      |                                  |
| 1                     | 1  | ○地域密着型サービスとしての理念<br>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている                  | 尊厳、安心、感謝、共生、交流を基本に、介護の必要な高齢者にその人らしい生活を安心と感謝に満ちた社会の一員として暮らし続けることを事業所独自の理念として掲げている。  |      |                                  |
| 2                     | 2  | ○理念の共有と日々の取り組み<br>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる                                     | 理念は玄関及び職員室に掲示し、日々の勤務の前に各自で確認したり、会議時には全員で唱和するなど理念の共有と実践にむけて日々取り組んでいる。   |      |                                  |
| 2. 地域との支えあい           |    |   |  |      |                                  |
| 3                     | 5  | ○地域とのつきあい<br>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている               | 老人会の集いや敬老会など地元の行事や清掃活動に参加、施設主催のバザーでは、多くの近隣住民の参加を得ている。バザーの収益金で購入した掃除機を福祉センターへ寄付するなど地元の方々との交流に努めている。                                 |      |                                  |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 |    |   |  |      |                                  |
| 4                     | 7  | ○評価の意義の理解と活用<br>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる                 | 全職員に評価の意義や目的を伝え、調査項目を手分して全職員で取りくむ中で、改善すべき事柄は全職員で検討して改善に向けて取り組んでいる。   |      |                                  |
| 5                     | 8  | ○運営推進会議を活かした取り組み<br>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 家族会代表、民生委員、老人会、市職員等関係者の参加を得て二ヶ月に一回開催している。外部評価の報告や前回の会議での検討事項の経過報告及び事業所の取り組みや現状報告を行い、参加者からも意見や助言を得て議事録を作成し、職員間で検討を行いサービスの向上に活かしている。 |      |                                  |
| 6                     | 9  | ○市町村との連携<br>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる                  | 入居者の介護保険の申請で市へ出向いたときには必ず担当者で面談して、介護保険法の解釈の疑問点を聞いたり、事業所の現状を報告して助言を貰ったり、また、市主催の研修や勉強会に参加して意見を出し合ってより良いサービスの質の向上に繋げている。               |      |                                  |

| 外部              | 自己 | 項目  | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)   | (○印) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取組んでいることも含む) |
|-----------------|----|---|---|------|----------------------------------|
| 7               | 10 | ○権利擁護に関する制度の理解と活用<br>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している                                     | 現在、権利擁護に関する制度の利用者はないが必要時の対応に備え、勉強会で共通理解を深めている。ホーム発行の「陽だまり新聞」にて家族に制度の紹介をしている。  |      |                                  |
| 4. 理念を実践するための体制 |    |   |   |      |                                  |
| 8               | 14 | ○家族等への報告<br>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている   | 家族が面会時に入居者の日常の暮らし振りを報告したり、金銭出納等の報告をしてサインを貰っている。遠方で来園が困難な家族や、面会が少ない家族には電話等で定期的に報告をしている。また、定期的に発行している「ホームだより」で事業所の取り組みや職員の異動を報告している。                  |      |                                  |
| 9               | 15 | ○運営に関する家族等意見の反映<br>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている   | 玄関に意見箱を置きその横にアンケート用紙を備えている。家族の面会時には親しく声掛けをして、意見や苦情が言い易い雰囲気作りに努めている。外部相談員1名を受け入れ、入居者や家族の意見、または苦情が外部へ表せる機会をつくっている。事業所の相談窓口と公的機関の窓口の紹介を重要事項説明書に明記している。 |      |                                  |
| 10              | 18 | ○職員の異動等による影響への配慮<br>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている                                | 職員の異動や離職を最小限にするためにアンケートを実施し不安、不満の解消につとめている。退職の場合は後任の職員と一ヶ月、業務を共にして利用者が安心して生活できるよう配慮し、利用者の混乱を防ぐ為に利用者同席の場で退職者への花束贈呈をしている。                             |      |                                  |
| 5. 人材の育成と支援     |    |   |   |      |                                  |
| 11              | 19 | ○人権の尊重<br>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している | 職員の募集や採用に当たっての制限は無く、仕事への適応性とやさしさ、福祉に対する情熱を重視している。20才代から50才代の男女職員が勤務しており、個々の持つ能力を発揮してもらっている。職員が希望する休日の取得や、研修会への参加等、職員の自己実現や社会参加ができるように配慮されている。       |      |                                  |
| 12              | 20 | ○人権教育・啓発活動<br>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる  | 管理者は、日々の業務において利用者への尊厳を第一に指導している。言づかいの「チェック表」を作り職員個々で自己評価表を基に気をつけている。  |      |                                  |
| 13              | 21 | ○職員を育てる取り組み<br>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている   | 研修及び勉強会の年間計画をたて職員の段階に応じて研修への参加を勧めている。勉強会では毎回「リーダー」を決め議事の進行や報告、発表を担当し責任感を持たせるなど職員の育成に努めている。  |      |                                  |

| 外部                                   | 自己 | 項目   | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)   | (○印) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取組んでいることも含む) |
|--------------------------------------|----|--|---|------|----------------------------------|
| 14                                   | 22 | ○同業者との交流を通じた向上<br>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている      | 地域のグループホーム部会に参加し、見学や研修で相互訪問を行い他施設の介護方法、記録の仕方等内容を伝達し職員間で共有し、サービスの向上につとめている。  |      |                                  |
| <b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>         |    |  |   |      |                                  |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応            |    |  |   |      |                                  |
| 15                                   | 28 | ○馴染みながらのサービス利用<br>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | 本人が納得できるよう入居前の見学時に十分な説明と話し合いをしたり、他の利用者とお茶、食事を共にしながら徐々に馴染めるよう状況に応じて柔軟に対応出来るよう体制を整えている。   |      |                                  |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援            |    |  |   |      |                                  |
| 16                                   | 29 | ○本人と共に過ごし支えあう関係<br>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている                       | 料理、縫い物、貼り絵など利用者の得意分野で、力が発揮出来るような場面作りや声かけを行い感謝したり、お互いに支えあう関係作りに努めている。  |      |                                  |
| <b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b> |    |  |   |      |                                  |
| 1. 一人ひとりの把握                          |    |  |   |      |                                  |
| 17                                   | 35 | ○思いや意向の把握<br>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している   | 利用開始時にセンター方式を取り入れ本人や家族等から生活歴、趣味、これまでの暮らし方等の情報を得ると共に、日々の関わりの中で本人や家族の新たな思いや意向の把握に努めている。思いをうまく伝えられない方は家族や関係者から、あるいは日々の行動や表情から思いをくみつつている。             |      |                                  |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し       |    |  |   |      |                                  |
| 18                                   | 38 | ○チームでつくる利用者本位の介護計画<br>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している        | 本人や家族等から得た思いや意向を基に、全職員で情報提供や意見交換を行い、本人の意向が反映された介護計画の原案を作成して家族等に呈示、さらに意見や要望等を話し合い介護計画を作成している。  |      |                                  |
| 19                                   | 39 | ○現状に即した介護計画の見直し<br>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している    | 毎月開催される職員会議の場で現場職員の気づきや意見等を取り入れ見直しを行っている。変化の兆しに予防的に対応していくために、3ヶ月毎に本人、家族、関係者と話し合い現状に即した新たな介護計画の作成に取り組んでいる。変化が生じた場合には、臨時会議を開催し現状に即した新たな介護計画を作成している。 |      |                                  |

| 外部                                  | 自己 | 項目  | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)  | (○印) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取組んでいることも含む) |
|-------------------------------------|----|---|--|------|----------------------------------|
| <b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>            |    |   |  |      |                                  |
| 20                                  | 41 | ○事業所の多機能性を活かした支援<br>本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている                             | 入院時の見舞いや洗濯物の持ち帰り、受診や自宅への送迎、家族の宿泊や食事の提供、馴染みの友人が入所している施設や入院している病院へ職員が付き添い面会の支援、孫の結婚式の付き添い等、これまでの暮らしの継続ができるように柔軟な支援をしている。   |      |                                  |
| <b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>  |    |   |  |      |                                  |
| 21                                  | 45 | ○かかりつけ医の受診支援<br>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している              | 事業所との協力医療機関はあるが、本人や家族が希望するかかりつけ医の受診を支援し、職員が送迎を行い家族等と受診結果に関する情報を共有している。人工透析利用者の医療機関とも密に連携を取り合っている。定期的にかかりつけ医の往診を受け、24時間、適切な医療受診体制が整えられている。                        |      |                                  |
| 22                                  | 49 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有<br>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | 利用開始時に看取りについて本人、家族等に書面で説明を行い意向を把握している。これまでに数名の看取り支援を行っている。家族等、医師、看護師、職員等と連携を図り重度化や終末期に向けた方針を共有している。その時々状況に応じて揺れ動く家族等と何度も話し合いの場を持ち、その都度、意思を確認し家族等の最終決断を尊重し支援している。 |      |                                  |
| <b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>    |    |   |  |      |                                  |
| <b>1. その人らしい暮らしの支援</b>              |    |   |  |      |                                  |
| <b>(1)一人ひとりの尊重</b>                  |    |   |  |      |                                  |
| 23                                  | 52 | ○プライバシーの確保の徹底<br>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない                          | 全職員は常に利用者の尊厳を支えるケアを念頭におき、言葉づかいや対応の自己評価を行い、利用者の誇りやプライバシーを損ねることのないよう心がけている。記録等の個人情報は所定の場所に管理、保管されている。  |      |                                  |
| 24                                  | 54 | ○日々のその人らしい暮らし<br>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している            | 食事の時間や食後の過ごし方、散歩、買い物等、利用者1人ひとりの希望に添えるよう柔軟に支援している。想いをうまく伝えられない方は表情等から推察し、本人が心地よいと思える過ごし方を支援している。  |      |                                  |
| <b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b> |    |   |  |      |                                  |
| 25                                  | 56 | ○食事を楽しむことのできる支援<br>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている                | 昼、夕食の副食は事業所内の厨房に委託しているが、その他はホームで利用者と一緒にしている。毎月、希望食の日を設けサンドイッチ、手巻き寿司、団子汁、おはぎ等、食材の下準備から出来上がりまで利用者が中心となって活躍している利用者と職員は同じテーブルを囲み会話を楽しみながら同じ物を食べている。                  |      |                                  |

| 外部                            | 自己 | 項目  | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)  | (○印) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取組んでいることも含む) |
|-------------------------------|----|---|--|------|----------------------------------|
| 26                            | 59 | ○入浴を楽しむことができる支援<br>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している                             | 利用者の体調と希望を確認し、毎日10時から16時の間で順番等に配慮しながら個別に合った入浴を支援している。いまのところ夜間の入浴希望者はいない。入浴を拒む方は無理強いせず、タイミングを図って声かけ等の工夫をしている。                         |      |                                  |
| (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 |    |   |  |      |                                  |
| 27                            | 61 | ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援<br>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている                           | 日々の食事の準備や後片付け、来訪者への湯茶の接待等の日常生活での出番や、レース編み、他利用者の衣類のゴムひも調整や特技を活かし、安心や自信に、つながるよう支援している。遠出の外出や外食等の楽しみごとは利用者と相談しながら行っている。                 |      |                                  |
| 28                            | 63 | ○日常的な外出支援<br>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している   | 外に出かけていく楽しみの重要性を全職員は認識しており、心身の活性につながるよう天候や利用者の体調に配慮しながら散歩、買い物、四季折々の花見等、日常的に外出を支援している。  |      |                                  |
| (4) 安心と安全を支える支援               |    |   |  |      |                                  |
| 29                            | 68 | ○鍵をかけないケアの実践<br>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる                                    | 日中は施錠していない。耳に心地よい音で人の出入りを把握している。利用者が外出しそうな様子を察知したら止めずに、職員が車で先回りをして一緒に近辺をドライブして帰ってくるように工夫している。安全面に配慮しながら自由な暮らしを支援している。                |      |                                  |
| 30                            | 73 | ○災害対策<br>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている                                | 昼夜を想定した災害時の組織図と手順書を作成し、年2回利用者と共に避難訓練を実施している。隣接する施設との連携と援助体制が確立されており、非常用食料や飲料水も準備されている。   |      |                                  |
| (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援    |    |   |  |      |                                  |
| 31                            | 79 | ○栄養摂取や水分確保の支援<br>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている                                   | 食事や水分の摂取状況を個別に記録し、栄養士の専門的アドバイスをもらっている。特に水分摂取量は詳細に記録されており、一人ひとりに応じた支援を行っている。全職員は情報を共有している。  |      |                                  |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり       |    |   |  |      |                                  |
| (1) 居心地のよい環境づくり               |    |   |  |      |                                  |
| 32                            | 83 | ○居心地のよい共用空間づくり<br>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | ホーム内は自然の日差しで明るく共用空間に畳敷きの休憩場が設けられており、大きなガラス窓越しに眺める風景は、季節の移り変わりを肌で感じることができる。対面式の台所で利用者が職員と一緒に昼食の準備をしている。よい香りが五感を刺激する。家庭的で安心できる共用空間である。 |      |                                  |

| 外部 | 自己 | 項目   | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)   | (○印) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取組んでいることも含む) |
|----|----|--|---|------|----------------------------------|
| 33 | 85 | <p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p> | <p>利用者の好みに応じて畳敷きとフローリングの居室があり、思いのこもった馴染みの物品を持ち込み利用者と相談しながら配置している。本人が居心地よく安心して過ごせる場所となるように配慮されている。</p> |      |                                  |